
俺は異世界だって構わないで喰っちまう人間なんだぜ？

荒盗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺は異世界だって構わないで喰っちまう人間なんだぜ？

【Nコード】

N32580

【作者名】

荒盗

【あらすじ】

異世界を渡る力と数々の変態的な力を手に入れたいい男が、肉欲に溺れたり世界を救ったりする話。

お前らちょっと交差点行ってジコレ 1

(男色) 業界最大手コンビニエンスストア・「ハミチンマート 東体育館店」

市内でも有名なハッテン場である東 体育館内に建つコンビニである。

「有難うございました」

店員の声を背に颯爽と店から出てきた男、もとい『いい男』。購入したスポーツドリンクを一気に飲み干す。

「ングウ・・・ハア、ンムツ、ジュルツ・・・」

異様な粘性を持つスポーツドリンクを、ネットリと喉に流し込む。ペットボトル飲料を飲んでいるとは思えない？気のせいであろう。

「んはあ・・・」

ペットボトルを口から話し、一息吐く『いい男』。

「流石は『貴男としつぱり ハミチンマート』限定スポーツドリンク・・・ノーマルモードのマイサンが一瞬でガチンガチンになった」

ペットボトルには「SHABRI シャブリスエット SWEAT」と書かれている

「超高濃度亜鉛&精力剤配合！！流れ出た『汁』の分だけ瞬間補給！！」がキャッチフレーズ。

「さて、マイサンもガチンガチンだし個人的にはもう4、5ラウンドは回りたいんだがな」

ハッテン場でマイサンをガチンガチンにしている『いい男』が4、5ラウンドも何をするのかは敢えて言うまい。ちなみにもう既に8ラウンド回っている。

「今日はこれから工場で整備なんだよなあ・・・」

本来なら休日のはずなのにツいて無え、とぼやく。

社長命令には従っしかないのが一自動車整備工の辛い所である。

「よし、名残惜しいが仕方ない、今日は後1ラウンドで帰ろう・・・」

そう言っつて身に纏った青ツナギの股間を異様なまでにパンパンに膨らませながら歩き出す『いい男』。

名を『阿部 高和』と言った。

「ガチンガチンのマイサン 焼け付くような菊穴 すべてがそうホモなら 本当に良かったのにな」

工場への道をテクテクと歩く阿部。

最後の1ラウンドが非常に満足だったらしく、非常に機嫌が良い。鼻歌も弾む弾む。

「君の穴を埋める夢を見た 淫靡な都会の裏路地で」

歌とともに股間も膨らむ膨らむ。

周囲の人間（主にノンケ）からはとんでもないものを見るような目。本人はそんなこと気にも留めずにテクテクと歩いている。

「物足りないような顔をして 俺をいやらしく誘ってた」

交差点。青。渡り出す。

「核融合炉にさ ブチ込んでみたい そう思う 真っ白い

ブレーキ音

衝撃

「ん？」

浮遊

精子、もとい静止

落下

「あ」

接地

頭蓋に衝撃

頭骨は割れ

脳漿が流出

衝撃は首へ

首が縦に139度曲がる

頸椎がゴキリバキリと砕けて
即死

こうして、稀代の「いい男」と呼ばれた男、阿部高和はあっけなく
死んだ。

彼の葬儀には沢山の男たちが参列し、涙を流したと言う

<<IIIO TOKO'S SIDE>>

「
」

声。緩やかな覚醒。

「
」

心地よい眠りからどんどん引きずり出されていく。

「
」

もう少し寝かせてくれ・・・良い淫夢の最中なんだ

「 覚めよ」

はっきり声が聞こえてくると共に淫夢の輪郭が壊れていく。ああ、駄目だ、脳が完全に目覚めた。

「 目覚めよ」

わかった、今起きる・・・

俺が仕方なく瞳を開けるとそこは

『見渡す限り何も無い』真っ白な空間だった。

「 起きたか」

訂正。何も無いわけじゃない。

なんかサンタクローズのような髭もじゃ熊さん体系の外国人がいた。古代ローマで使われていたトーガのような服を身に纏っている。つまり布を巻いているだけだ。

寝起きの俺を誘ってるのかこいつは

「 おいおい、何処だよここは、そしてお前さんは誰だ?」

とりあえず聞くべき事を聞こう。

「ここは『白の空間』 いかなる世界にも干渉されずに いかなる世界にも干渉できる空間」

何を言っているんだこいつは。 ああ、電波か何か

「そして我は創造主である」

はい電波確定。

「死者よ 汝に命ずる」

「おいちよつと待て」

この電波が何かおかしなことを言った気がする、いや全部おかしいけど。

「死者？誰が？」

「この空間に存在するのは我と汝のみである」

「俺が死者だつてののか？」

「その通りである」

何を言ってるんだこの電波。俺が死んでいるわけが無からう

「記憶が抜け落ちているのか 思い出せ」

電波野郎が指を鳴らす 交差点 青 渡り出す 「核融合炉に
さ ブチ込んでみたい そう思った そつと白い ブレーキ
音 衝撃 「ん？」 浮遊 精子、もとい静止 落下 「あ」

接地 頭蓋に衝撃 頭骨は割れ 脳漿が流出 衝撃は首へ 首が

縦に139度曲がる 頸椎がゴキリバキリと碎けて

「あ、俺、死んだんだ」

俺は、全てを思い出した。

お前らちょっと交差点行ってジコれ 1 (後書き)

ムラムラしてやった。反省しかしていない。

鼻歌とかね、もうね。ごめんなさい。

まあ石を投げるなって、今から磔刑に処されるから許してくれよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3258o/>

俺は異世界だって構わないで喰っちゃう人間なんだぜ？

2010年10月15日23時51分発行